

## 学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

### ～「学校×KDDI 共創プロジェクト」～

KDDI、長野県立大学との包括連携協定の締結（令和2年）と同時に開始。学校単独では実現困難な「生徒主体の特色ある取組」を、KDDI と共に創り上げ実現を目指すもの。これまで県立高校8校で実施しており、令和4年度実施校の取組を紹介する。

#### ■ 中野立志館高等学校

##### 『空き家活用プロジェクト』～みんなで作る交流拠点を実現しよう～

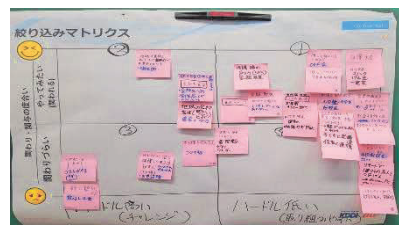
1年生有志が、中野市の空き家を100円で販売している新聞記事をきっかけに、「空き家を活用した交流拠点をつくり、街を活性化させたい」と考えた。そこで共創プロジェクトに応募し、KDDIの伴走を得て、空き家の活用方法について探究することにした。

KDDI から助言を受けながら、空き家の利用者をイメージし、年代によるニーズを考えたアイデアを、100個目標に出し合った。それらについて「絞り込みマトリクス」を活用し、実現可能な案に絞り込み、具体化に向けて5W1Hに基づいた詳細な企画書やタスク管理表を作成し、準備にあたった。

そして1月18日に、空き家で様々な人と交流できるイベントを実施した。イベントでは、感染症対策を施しながら約30名が集い、持参した物品の交換やビンゴゲーム等を通じた交流、同校の3年生が考案したおやきの販売や、温かいお茶の提供等も行った。

その後、中野市の副市長を訪問し、これまでの取組の他、市や関係団体と連携して今後の活動を行っていく構想についてプレゼンテーションを行った。

PR期間が短かったため、今後はマスメディアやSNS等を通して活動を発信しながら、更に多くの方が交流できる場を提供するとともに、活動を新1年生にも広げ、探究を継続したいと考えている。



アイデアの「絞り込みマトリクス」



イベント当日の様子

#### ■ 松本工業高等学校

##### 『IoTを活用した獣害対策の研究』

松本工業高校は、生徒が「地域の課題解決」をテーマに課題研究に取り組んできた。生徒が主体的に課題研究を行うために、これまでも産学官との連携を重視してきた。

本プロジェクトに挑戦した理由は、生徒が暮らす信州での問題点を考えた中で、身近にある里山や森林の課題を、IoTを活用して解決したいと願ったからである。そのため、里山の自然に関連する林業に絞って調べたところ、鹿などによる食害により、高山植物や植樹した樹木が育たないなどの課題があることがわかった。更に専門機関である長野県林業総合センターに現状や問題点を聞いたところ、林業従事者の高齢化で獣駆除のための罠管理が行えないため、獣が罠に掛かったことを遠隔から知らせる装置があれば、駆除が効率化できることがわかった。そこで、KDDI から企業の視点による助言をいただきながら、LINE アプリを用いた罠の通知システムを開発・運用した。KDDI から、システムの商品化に向けた消費者の視点の改善点等を助言いただいたり、KDDI が行っているIoT事例に関する意見交換会に参加させていただきながら、システムを完成させた。学校だけの学びではなく、企業、関係機関と連携することで、より高度な生徒主体の探究的な学びとなった。

システムには通知の精度等の課題があり、今後は後輩が研究開発を受け継ぐ予定である。



完成した罠の通知システム（下）を森林に仕掛ける場所

